

福島県沖地震に伴う対応

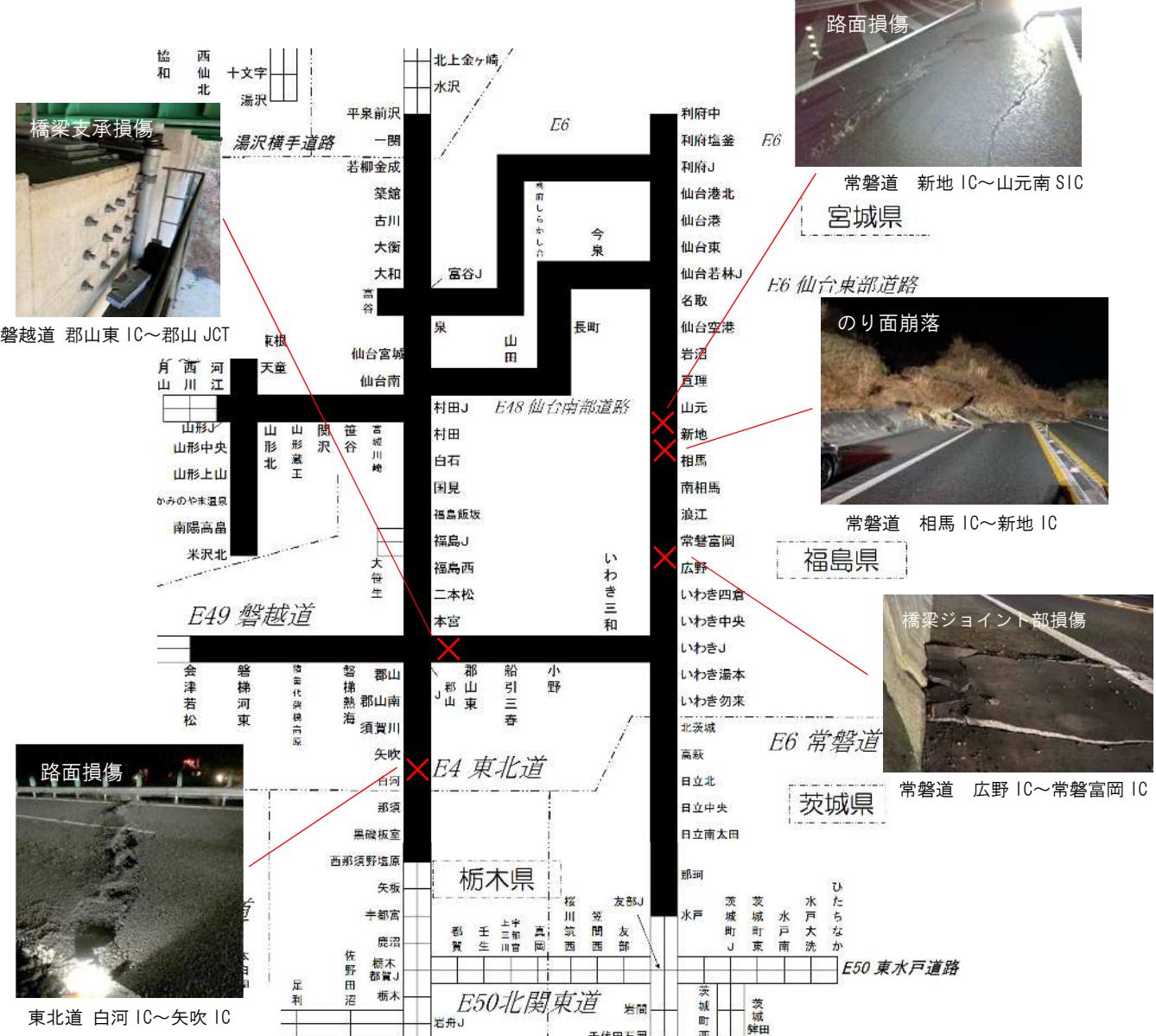
1. 地震概要

- ・発生日時：令和3年2月13日（土）23時7分
 - ・地震規模：マグニチュード 7.3（最大震度6強）
- ※最大は東北道 国見 IC で計測震度 6.0 を観測

2. 通行止め状況

- ・NEXCO 東日本管内 約 820 km（計測震度が通行止め基準値を超過した区間）

【通行止め区間と主な被災箇所】



3. 地震発生後の対応

(1) 被災状況確認

- ・地震発生後、速やかに現場巡回・点検体制を構築し被災状況を早期に把握。

大規模なり面崩落 : 1 力所

小規模な橋梁損傷(ジョイント部等) : 8 力所

路面損傷 : 34 力所

(2) 応急復旧作業

- ・被災状況確認と合わせて速やかに復旧体制を構築し順次応急復旧。
- ・地震発生から約 11 時間後に東北道全線の通行止めを解除。
- ・地震発生から約 21 時間後に常磐道（相馬～新地）約 9 km を除き、通行止めを解除。（詳細は下記を参照）

【通行止め延べ時間】

| 路線番号 | 道路名 | 上下 | 区間(自) | 区間(至) | 延長(km) | 通行止め延べ時間 |
|------|----------|----|-----------|-----------|--------|----------|
| E4 | 東北自動車道 | 上下 | 西那須野塩原IC | 白河IC | 30.6 | 約 4 時間 |
| E4 | 東北自動車道 | 上 | 白河IC | 白石IC | 158.3 | 約 7 時間 |
| E4 | 東北自動車道 | 下 | 白河IC | 須賀川IC | 28.5 | 約 11 時間 |
| E4 | 東北自動車道 | 下 | 須賀川IC | 白石IC | 129.8 | 約 7 時間 |
| E4 | 東北自動車道 | 上下 | 白石IC | 一関IC | 108.5 | 約 4 時間 |
| E4 | 東北自動車道 | 上下 | 一関IC | 平泉前沢IC | 11.5 | 約 3 時間 |
| E6 | 常磐自動車道 | 上下 | 水戸IC | いわき勿来IC | 72.5 | 約 3 時間 |
| E6 | 常磐自動車道 | 上下 | いわき勿来IC | いわき中央IC | 21.0 | 約 4 時間 |
| E6 | 常磐自動車道 | 上下 | いわき中央IC | 相馬IC | 81.6 | 約 9 時間 |
| E6 | 常磐自動車道 | 上下 | 相馬IC | 新地IC | 8.5 | 約 9 時間 |
| E6 | 常磐自動車道 | 上下 | 新地IC | 亘理IC | 34.8 | 約 21 時間 |
| E6 | 常磐自動車道 | 上下 | 亘理IC | 利府中IC | 32.5 | 約 4 時間 |
| E6 | 仙台北部道路 | 上下 | 利府JCT | 富谷IC | 15.0 | 約 4 時間 |
| E13 | 東北中央自動車道 | 上下 | 米沢北IC | 東根IC | 66.8 | 約 4 時間 |
| E48 | 山形自動車道 | 上下 | 村田JCT | 寒河江IC | 53.0 | 約 4 時間 |
| E48 | 仙台南部道路 | 上下 | 仙台若林JCT | 仙台南IC | 12.2 | 約 4 時間 |
| E49 | 磐越自動車道 | 上下 | いわきJCT | いわき三和IC | 8.8 | 約 4 時間 |
| E49 | 磐越自動車道 | 上下 | いわき三和IC | 猪苗代磐梯高原IC | 84.9 | 約 7 時間 |
| E49 | 磐越自動車道 | 上下 | 猪苗代磐梯高原IC | 会津若松IC | 19.9 | 約 4 時間 |
| | | 合計 | | | 820.4 | |

※地震発生から 19 時間後には全線において(のり面崩落箇所[相馬～新地]含め)緊急車両の通行路を確保

4. 常磐道（相馬 IC～新地 IC）切土のり面崩落箇所の対応

（1）被災概要

- ・被災箇所：常磐道（相馬 IC～新地 IC）268.9KP 付近
 - ・崩落規模：幅 70m × 高さ 15m × 奥行 10m（約 5,000m³）
 - ・第三者被害：無し

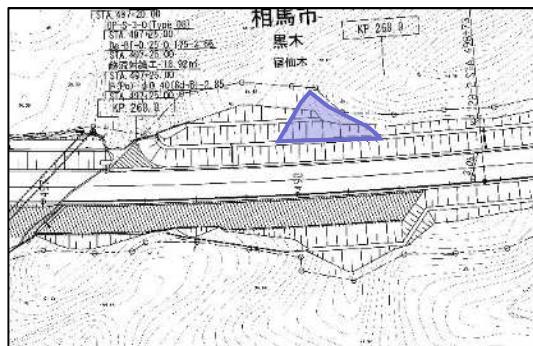
【位置図】



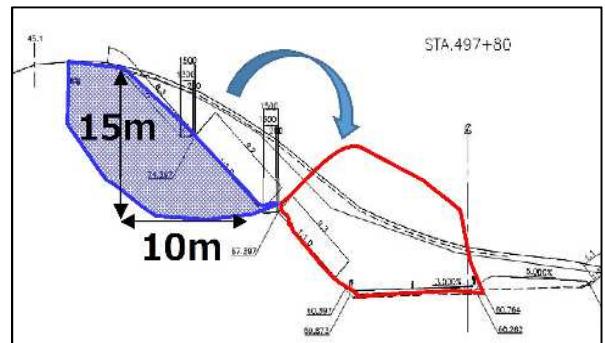
【被災状況】



【平面図】



【横断図】



（2）被災確認後の対応

- ・被災確認後、速やかに協力会社の応援を含め復旧体制を構築し土砂を搬出。
(バックホウ 7 台、ブレーカー 1 台、ダンプトラック 32 台)
 - ・地震発生から約 19 時間後の 2 月 14 日 (日) 18 時に緊急車両の通行路を確保。
 - ・ドローン撮影や衛星車両を活用し関係者間で現場作業状況等を共有。
 - ・有識者による現地確認を速やかに実施し崩落原因と応急復旧方針を確認。
 - ・昼夜連続作業により地震発生から約 91 時間後の 2 月 17 日 (水) 18 時に応急復旧を完了させ通行止めを解除。

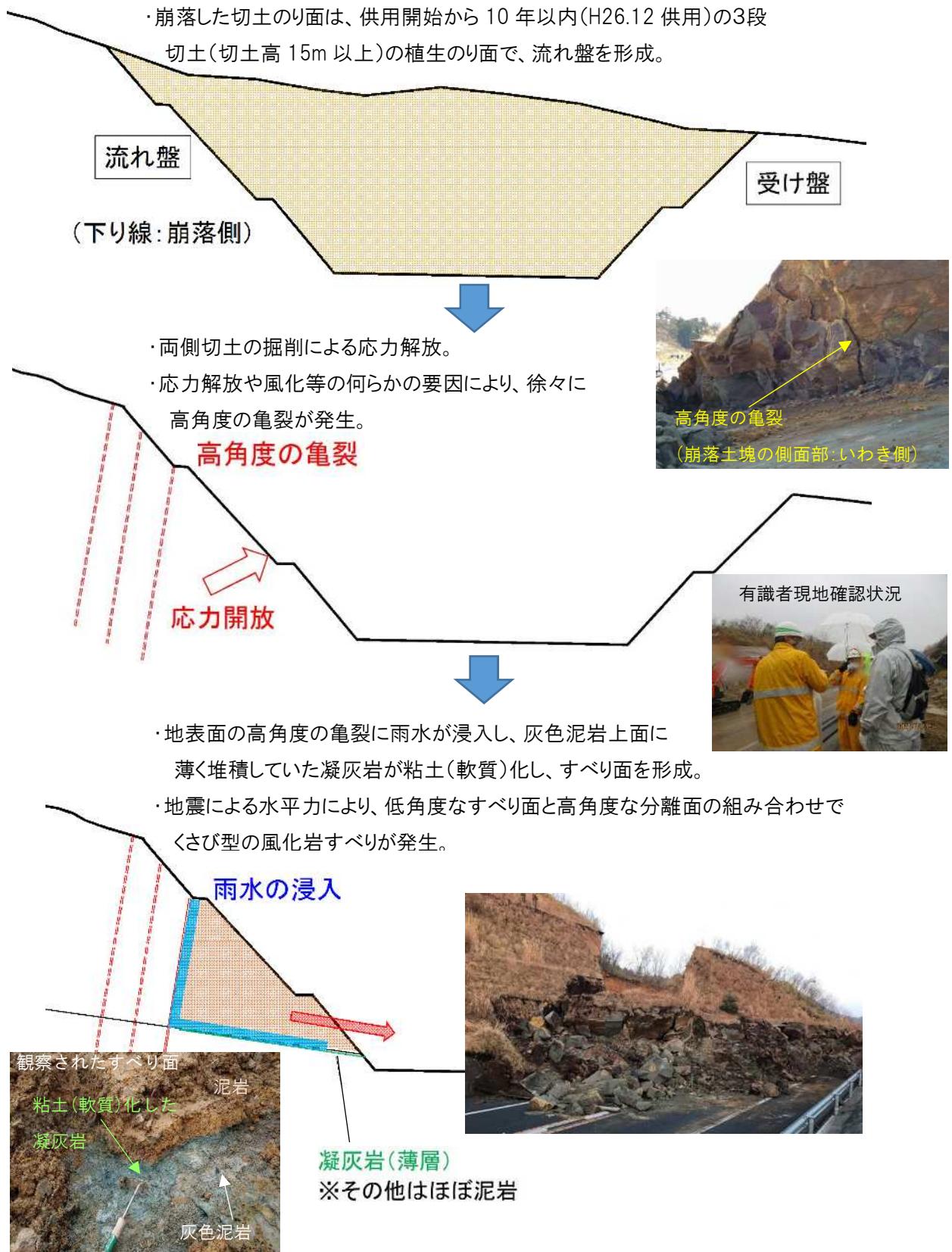
※路肩幅員を縮小していることから速度規制（70 km/h→50km/h）を行った上で通行止め解除

【現場作業状況】



(3) 崩落原因

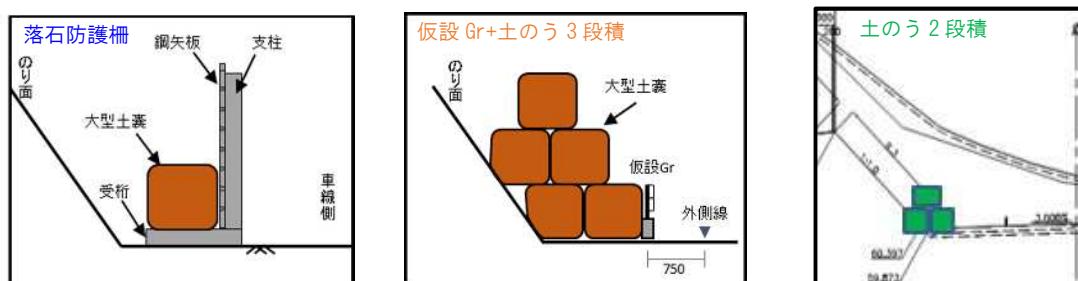
- ・当該地は新第三紀鮮新世の頃に堆積された泥岩及び凝灰岩から構成。
- ・崩落した切土のり面は、供用開始から 10 年以内(H26.12 供用)の3段切土(切土高 15m 以上)の植生のり面で、流れ盤を形成。



(4) 応急復旧

- 不安定な箇所(小段排水コンクリートシールに亀裂が確認された箇所)について排土。
- 排土により露出したのり面はモルタル吹付及びブルーシートによる保護。
- 安全のため路肩部に落石防護柵及び大型土のうを設置。
- 本復旧が完了するまで安全確認のため伸縮計を設置しリアルタイム監視。

【応急復旧概要】



【応急復旧完了状況】

